


Jazz Today®

Monthly Free Magazine

2006.05 **No.25**

**Take
Free**
from TOKYO, japan

Buenos Aires Session



**TORU DODO
MANABU OHISHI
MAKOTO NAKAMURA**

「祈り」と「思い」が
深みを増して。



大石学トリオの新譜を聴く

text by 吉田和光

(レコードショップ・タハラ本厚木本店：ジャズ担当)

JAZZは難しい音楽じゃない。敢えてこう言わなければならないほど、JAZZはまだまだ「マニアのための小難しい音楽」と思われている節がある。特にピアノトリオは。

大石学のJAZZは、とても自然だ。肩ひじ張った小洒落たところが無いばかりか、まるで友人と親しげに会話している時のように、ふわりと自然に伝わってくる。「日常に溶け込む音楽」とは良く使われる表現だが、大石学のJAZZは、「日常そのもの」のようである。今回、彼が5枚目となるトリオ作品『Voyager』を完成させた。

アルバムはチャーリー・パーカーの〈confirmation〉で幕を開ける。まるで会話をしているかのようなピアノ、ベース、ドラムが徐々に熱を帯びていく様は物語の始まりを予感させ、胸が高まるのを抑えられない。ところが驚いたことに次の〈Funky "M"〉ではいきなりグルーヴィに表情を変えるのだ。何とハモンド B3 オルガンをフィーチャーしたファンキーチューン！ オルガンの響きとピアノのタッチの対比が新鮮なこの曲が、今作での新しい試みであると言ってよいだろう。軽やかにスタートする〈島〉は語りかけるかのようなピアノに続き、あたかもすぐそこで演奏しているかのような、米木のベースと原のドラムの臨場感あふれるプレイもたまらない。ここで大石はメロディオンの柔らかな音色も聴かせている。

あくまで抑えた語り口で物語を紡いでいく繊細なタッチのピアノソロ〈Coral〉、うって変わって自転車で道を疾走していくようにスピーディな〈Water Bridge〉、色彩豊かな〈Chad〉と曲は様々な表情を見せていく。

最後の表題曲〈Voyager〉は、惜しくも1月に急逝した本田竹広へと捧げられている。静かに胸を打ってくる“祈り”にも似た音色に、物語は収束していく。ここでのピアノは、人から人に伝える“思い”であることに他ならない。

様々な色彩、表情に彩られたこの作品ではあるが、常に根幹にあるのは親しみやすく、シンプルかつ極上とも言えるメロディラインなのである。これこそが彼の独壇場であり、デビュー作から一貫してそのメロディへのこだわりはいささかも揺るぎが無いばかりか、ますます研ぎ澄まされているかのように思われる。

横浜に生まれ、ヤマハ音楽院を卒業した後プロのピアニスト、キーボーディスト、アレンジャーとしてPOPS、JAZZを問わず幾多のアーティストと関わってきた大石学。中でも99年に逝去した日野元彦との永年に渡る活動は多くの人に知られるところである。最近では、シンガー土岐麻子のレコーディング、ライブをサポートし、知らず知らずのうちに耳にされている方も多いかも知れない。大石学の「親し

Voyager
大石学トリオ

NEW

EWSA-0123 (TGG5-83) CD/SACD ハイブリッド
¥2,800 (税込) 2006/5/24 Release

01. Confirmation
02. Funky "M"
03. 島
04. Coral
05. Water Bridge
06. B Cliff
07. Chad
08. Toccoripua
09. Plants
10. Voyager

All songs composed by Manabu Ohishi
except trk 1 by Charlie Parker

Manabu Ohishi: piano, hammond B3 organ, melodion
Yasushi Yoneki: bass
Dairiki Hara: drums



みやすさ」の一端が、このようなジャンルを越境した活動にあることは改めて記すまでもない。

97年に日野元彦(ds)も参加した初のリーダーアルバムをリリースした後、2002年、満を持して米木康志(b)、原大力(ds)という布陣での「大石学トリオ」としてのデビュー作『PAINTED DESERT』をリリースしている。ポイントはこの中で童謡の〈赤とんぼ〉をカバーしていること。その耳慣れた美しいメロディはジャズ通のみならず、初めてJAZZに触れる多くの人の心にも響いたはずだ。さらに前作『くり返されること〜Seasons Return』では「日本人としてのJAZZ」にさらに深く踏み込んでいる。このことから“日本人としてのアイデンティティ”と“大石学の美意識”の融合が常に彼の創作活動のテーマになっているのかも知れないと、ふと考える。今作で大石がオマージュを捧げている本田竹広がやはり童謡をカバーした『ふるさと』をリリースしているのも忘れてはならない。

最近心が乾いているならば、是非この作品を手にとってみて欲しい。初夏の風と共に聴けば、潤いを取り戻してくれるに違いないだろう。

くり返されること ~ Seasons Return ~

大石学トリオ

EWSA-0108 ¥2,800 (税込)
2005/5/25 Release



日本的なリリズムと心の琴線に触れるメロディを持つ楽曲。確かなテクニックに裏打ちされた演奏力で、多くのピアノ・トリオ・ファンを魅了してきた、大石学トリオの通算4枚目となる新作登場！！

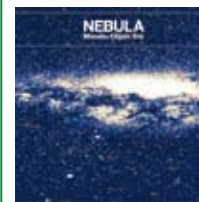
01. くり返されること ~ Seasons Return ~
02. Moon's Pass
03. 大地 (The Earth) / 04. A Touch Of Spring
05. One Autumn Evening / 06. A Starry Night In Winter
07. Drift / 08. Hot Spring / 09. All The Things You Are
10. Indian Summer / 11. Elegy

■パーソネル
大石学 (p, quena, japanese fl, fl, b melodion)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

NEBULA

大石学トリオ

EWSA-0092 ¥2,800 (税込)
2004/3/21 Release



「半歩」から「星雲」へと旅する——新派の調べ、ピアノトリオの王道をいくサウンドでファンを魅了してきた大石学トリオが、新たなスタンダードを創り出す！

01. Heavenly Sheep / 02. Time Flies
03. NEBULA / 04. Everything I Love
05. Colors In The Dusk / 06. 月と火星
07. For Long / 08. Round Midnight
09. Moon Shade / 10. ゆるやかな時間

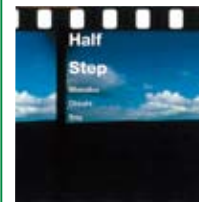
*CD/SACD ハイブリッドディスク

■パーソネル
大石学 (p)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

Half Step

大石学トリオ

EWCD-0070 ¥2,300 (税込)
2003/2/21 Release



「美しいピアノ、麗し過ぎる名曲の数々、シングルし過ぎるリズム陣。その一体感を聴け」(寺島靖国)

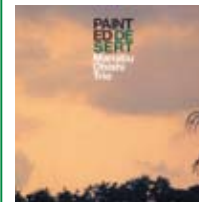
01. Long Ago & Far Away / 02. My One And Only Love
03. 五月雨 / 04. Half Step / 05. 壊れ行く地球
06. Peace / 07. I Didn't Know What Time It Was
08. Dark & Bright / 09. I'm Yours / 10. Eternal
11. 追憶の中に (For Sakura Matsuoka)

■パーソネル
大石学 (p)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

PAINTED DESERT

大石学トリオ

EWCD-0038 ¥2,310 (税込)
2002/11/21 Release



「美しいピアノトリオ」というシンプルなコンセプトへのこだわりは、想像を越えた優しい響きのアルバムを生んだ。

01. But Beautiful / 02. Painted Desert / 03. I Hear A Rhapsody
04. Body&Soul / 05. Softly As In A Morning Sunrise
06. Moon River / 07. Soul Power
08. Aka-Tombo / 09. In The Moonlight

■パーソネル
大石学 (p)
米木康志 (b)
原大力 (ds)

まずは昨晚、本誌編集長のじぶんとデザイナ―の間で交わされた実話からどうぞ。「で、あと入稿していないのは?」「プエノスの連載と、何でしたっけ?ほら、モモテツ?」「ん!?モモテツ:」「違いましたっけ!?」「桃太郎電鉄か...何じゃ、それ!?」「...」「ああ、百々徹ね(笑)」「えっ、何ですか?」「下ド・トオルって読むんだヨ、それは(笑)」「下ド・トオルですか(笑)。次に3月12日(日曜)夜の实話である。ハンク・ジョーンズのソロ公演(@Blue Note TOKYO)1stセットを観終えたじぶんは楽屋で握手を交わしたあと、時計を見て思った。今からタクシーを飛ばせば、百々徹のライブも充分観れるぞ。当初はハンクの余韻を転がしながら直帰するつもりだったが、どうしても「下ド・トオル」といふ名前の響きが後ろ髪を引いていた。その週に「日曜のPTNNは行かないの?」と誰かに聞かれ、前の日にも別の知人から「百々徹、いらしいぞ」と吹き込まれていた。が、さすがに二股は厳しく思え、最終日のハンクに酔って銀座線に乗るはずが気づいたら、「新宿2丁目まで」と運転手に告げていた。生はおろかCDの1曲さえ聴いていないNY在住の日本人ピアニスト、それでも挙手させたのは「百々徹」といふ名の魔力(?)である。じぶんにとっては「渋さ知らズ」、以来のインパクトのある名前、もちろん本名だ。

やはり名前の話題から入った。「まあ、一回聞けば憶えてくれる名前なんで、有難いちゃあ有難いですね(笑)。デビュー盤のタイトルもずばり『Dodo』(廢盤)、口頭でやり取りした請求書の宛名に因んだ(ホルビー・ポボ)7曲目には(ドット・ドット)といふ作品名も散見できる。そして3枚めとなる新作が『Dodo』で、ラストを飾る(ト・ドッグのテーマ)のDodoもボストン留学時代に友人がつけてくれた愛称らしい。ところで来日と重なったWBCの熱戦は観たかな?「運決勝から急激に興味を持ちまして、立川の実家で観てました。一と百の違いはあるけれどもイチローの存在には興味ある?」「日本人選手ではむしろ野茂ですね。僕のボストン留学と野茂が渡米した年が同じなんで結構思い入れがありますね。2枚めが『116 WEST 238 St.』今回収録されている(ボーンレス&スキンレス)といふ曲名も近所のスーパーで手にした鶏肉(もも肉)の表示から頂戴したとか。作品の行間感から生まれきた音楽の香りが漂うんだけども自分ではどう思う?」「そうですね、いや、そういうふうには聴いてくださる方がいると知って凄く嬉しいですね。僕自身、凄く影響を受けやすいほうだし。結局のところ、見たもの、聞いたものからしか作品も出来ないじゃないですか。NYという外国で暮らすだけで刺激的な情報は多いと思うし、今はいろいろな所に行ってみよう、という気持ちもありますね。極端というか単純な話、宇宙に行ったらもっと凄い音楽が出来るんじゃないかと(笑)。この明朗な語り口、MCにも気が負いなくなる、たちまち観衆の構えを解す。根源的な明るさといふものが百々サウソンの特徴だと思っただけか?」「愉しくやりたい

とは思いますが、結構、ジャズのライブって暗い印象がありますよね。そこらへんは幾らでも変えられるような気がするし、なんか笑いが欲しいというのがありますね。アノ日も演劇っぽいのがいいかなって思っただけですよ。なんで?」「なんかPTNNっぽいじゃないですか(笑)。でも、@Motion Blue YOKOHAMAでも爆笑トーク炸裂だったとか?」「いっちゃいましたけれども(笑)。最後はジョン(ラムキン)も安カ川(大樹)もさんなまで歌ってましたから(笑)。レンガ倉庫の一角でトリオ全員が合唱した件の曲とは@MEMOこと簡美京平作曲のアニメ主題歌(サザエさんのテーマ)である。献辞の相手は世界のマスオ、こと増尾好秋プロデューサーだと知れば何をかいわんや、であるけれども?」「いや、実際はこのアレンジ自体、明大のジャズ研時代にもう創ってて。飲み会なんかで演ると受けるじゃないですか。その意味では今回の作品に収録されて凄く嬉しいです。実は当の増尾氏自身は在米生活が長く、(サザエさんのテーマ)自体を知らず、むしろ楽曲自体の良さに惹かれての採用になったというから面白い...と、ここまで読んで終始、百々徹のお茶目な側面ばかりを強調しているように受け取る読者もいるかもしれないが、それは違う。かなり独創的な曲想、随所に仕掛けが隠されているスリリング性、口者でない運指の蛇行感、ユーモアとウィットに富んだ世界観、技巧や難易さを越えて愉しませるサーピス精神:それは彼の天性だろう。名前の響きを侮ってはいけません。『Dodo』を聴けば、彼の人格がわかる。9・11の述懐を語ってもちったた際、急に鳥肌が立ってきました...と彼は呟いた。今年で8年目を迎えたNY生活の、音楽的スケッチが満載されている好盤だ。



百々徹

根源的な明るさを秘めた運指の響き。

「百々徹」といふ名前に誘われて

text by 末次安里 (本誌編集長)

百々徹 [Toru Dodo]

1972年2月8日、東京生まれ。4歳よりピアノをはじめる。明治大学卒業後、95年にボストンのパークリー音楽院ジャズ作曲科に留学(同期にはアキコ・グレース、山中千尋)。在学中には演奏部門で「Performance Award」、作曲部門で「Herb Pomeroy Award」を音楽院より受賞、98年に首席で卒業する。卒業記念で自主制作盤『メランコリー・キャッツ』を録音し、2002年にファースト・アルバム『DODO』(廢盤)をリリース。1998年よりニューヨークを拠点に、JAZZクラブを中心に精力的な演奏活動を行なっている。

百々徹

DoDo 3 Jazz City Spirit MZCJ-1087 ¥2,520 (税込) 2006/2/22 Release

ニューヨーク在住の若手ピアニスト、百々徹が満を持して送るさらに進化したサード・アルバム

01. Ror B / 02. ボリヴィア / 03. ボーンレス&スキンレス
04. インサイド・ハプルス / 05. NYUCS
06. スパイラル・エスカレーター / 07. アラベスク
08. ジャコモ・スイング / 09. ブラッシュ・ピッチ
10. マイ・ロマンズ / 11. For Mr. Masuo (サザエさんのテーマ)
12. T.ドッグのテーマ

メンバー:
百々徹 (ピアノ)
ジョセフ・レボア (ベース)
ロドニー・グリーン (ドラムス)
プロデュース: 増尾好秋

百々徹

116 WEST 238 St. Jazz City Spirit MZCJ-1028 ¥2,520 (税込) 2004/2/25 Release

Tokyo で生まれ New York で育まれた新世代ピアニスト、百々徹のセンシティブ&プリアトなセカンド・アルバム。

01. フェイシス / 02. 不思議のアリス
03. ソー・ソー・シー・ミー / 04. プリモニオン
05. インターメッツォ / 06. 12 - 13
07. ノーヴェンバー / 08. メタモルフォーズ
09. ニュー・シネマ / パラダイス “愛のテーマ”
10. インデュアリング・フリーダム

メンバー:
百々徹 (ピアノ)
ルーベン・ロジャース (b)
ジョン・ラムキン (ds)

中村真

ピアニスト

1972年大阪生れ。幼少の頃より音楽に親しみ、絶対音感を身につける。大阪音楽大学入学と同時にジャズピアノを始める。学生時代よりプロとして京阪神のジャズクラブに出演する。00年活動の拠点を東京に移す。02年10月に、自己のプロデュースするポップ・アバンギャルド・ジャズグループ「キムサク」(その後解散)の1stアルバムをリリース。



Makoto Nakamura

ソロ・ピアノ三部作の最終章をひっ提げて。

旅に何かを求める限り、得るものは何もない 自転車ツアーを目前としたピアニストの本願は？

text by 長門竜也

この抽象的語法を扱うピアニストは、こと演奏において自らの衝動を完璧に楽器に置き換えられる天才である。しかし、発した音の行方についてほとんど執着がないようにもみえる。「音は発した時点でもう僕のものやないんです。「音楽の神様」のもの。だから僕の演奏をどう思ってもろても構へんし、イヤな思いをするのも自由。あなたの音楽で心が救われましたと感謝されても、もともと人を救おうと思っただけ演奏なんかしてないし。どれも僕やなくて音楽の力やもん」。そう言う中村真はこれまで綾戸智絵とのコラボレーションをはじめ、地元関西で結成したキムサク、YA!3、安カ川大樹トリオ、東京LAMAと所属を変え、次々とピアノの新しいスタイルを開拓してきた。ただどれも彼の演奏にしかない内省的はかなさをしたためていて、それぞれが彼だけの仕様。それは未来へ向けて生気を喚起する類のものではなく、本願を得るためならその場で燃え尽きてもみせる木喰上人のストイックさである。

その中村が一昨年、ソロ・ピアノ・シリーズにとりかかった。そのトリロジーの最終章にして、自ら一番の力作だと語る『Solo piano vol.3』がこの4月にリリースされる。「難しい内容のアルバムやけど、音を視覚的に捉

えることができる人にはたくさん面白い風景が見えてくると思う。「印象を紡ぐ」というか、たとえばキムサクの〈Erotic blue〉では、元と同じ曲ではなくてその曲から受ける印象を音で映像化してみてるんです」

〈That sunday That summer〉もかつて録音された曲で、その変化はここでやった実験の大きな成果のひとつとなった。本来が抽象



的手法で解釈された綺麗なナンバーだ。その断片的なフレーズがさらに細切れとなり、切り貼りされてひとつの別な工作物に仕上げられている。「構造的にも面白いの。曲のピークに印象的コード進行とメロディが仕込んであるねんけど、その部分がめちゃくちゃデフォルメされて出てくるわけ」。あるいは、みごとに対を成して自分でも驚いたという2曲がある。〈風子〉と〈the first water〉。同じひと

つの湖面を、偶然にも空から見ると、水の中から見るかという両イメージとして立ち上がった。「明らかに似たような具象があり、まさに双方からのイメージで言い当ててみせる。めっちゃ海が荒れていたとしても水の中に入るとじつは凄く平和やねん。そんな両極端な感じで、我ながらこれうまく対になっているな」と

そんな印象に紡がれた抽象的タペストリーをひっ提げて、5月9日から1カ月をかけた全国ツアーへ出る(詳細地図を参照)。それがまたユニークで、ここ7年間試してきた自転車とテントと携帯コンロだけを手段としての旅だという。「ほう、それは」と普通人が安易に想像するような、自然に触れて、インスピレーションを高めて、それを音楽に反映させて…というような目的では決してない。

「音楽って何かって言うたら、僕なんです。同じように自転車で旅するのも僕やし、タバコにまみれ酒でムチャクチャになってたのも僕。旅に芸術を求めているぐらいではまだ芸術家として甘く、そういう人は音楽でも表面的なものしか出来へん。旅に目的はあるけど目的を持ったらあかんの。矛盾してるけど、何かを得るために旅する限り旅は何も応えてくれない。何かを得られるのは、それを経験



中村真の自転車ツアー日程

5/16(火) 石川 山代温泉 SWING
TEL : 0761-77-5772
e-mail : swing@sepia.plala.or.jp
http://barswing.fc2web.com/index.html

5/17(水) 金沢 蛭庵
金沢市釣部町 10 番地
TEL : 076-253-1696
e-mail : flueno@bk2.so-net.ne.jp

5/20(土) 高岡 SCAT
富山県高岡市小泉新 1-1
TEL : 0766-36-8108
http://homepage2.nifty.com/scat/

5/22(月) 黒部 光徳寺
富山県黒部市田家新 1145
TEL : 076-552-2059

5/26(金) 新潟 SWAN
新潟市西堀通 4 ジャズ喫茶スワン
TEL : 025-223-4349
www4.ocn.ne.jp/~swan/index.html

5/27(土) 新潟 器
新潟市営所通り 1-329
TEL : 025-224-6585

5/30(火) 山形 瑛蔵(さくら)
山形市本町 2-4-26
TEL : 023-610-7126

6/2(金) 鶴岡
鶴岡市昭和町 12-61 昭和ビル 2F
TEL : 0235-23-1272

6/5(月) 秋田 Cat Walk
秋田市大町 3丁目 4-11 ハイクリエイト NKビル地下
TEL : 018-865-6699
http://www.jazzcatwalk.net/

6/10(土) 弘前 たけや
弘前市穂町 10-1
TEL : 0172-36-8938
http://tsugaru.cside.com/omise/takeya/takeya.htm

5/19(金) 能登 Moritat
石川県七尾市小島町 99 番地
e-mail : cafemoritat@ybb.ne.jp

5/9(火) 大阪十三 ナチュラル
大阪市淀川区十三東 3-9-7
TEL : 06-6305-8845
www7a.biglobe.ne.jp/~bar_natural/

5/11(木) 京都 Le Club Jazz
京都市中京区三条御幸町 三条ありもとビル 2F
TEL : 075-211-5800
http://web.kyoto-inet.or.jp/people/ktsin/

- solo piano vol.3 の収録曲**
01. Spring can really hang you up the most
 02. That Sunday That Summer
 03. クマさんのフルーツ
 04. Two D ♭ majors are in existence
 05. 風子
 06. Blue in Green
 07. The first water
 08. improvisation~Erotic Blue(vol.1)
 09. 夏の思い出
 10. improvisation~Bluespotted mudhopper
 11. improvisation~Erotic Blue(vol.2)

したずと先の話。じゃあ中村真の理想とする芸術活動(もしくは音楽活動、生活、でもいい)は何、と言われたら山下清って答えよかな。芸術と経済活動を両立させようとするこつってバチあたりだし、経済活動の幅を広げれば芸術の純度ってぜったいに落ちてくる。その意味でも山下清の生活が僕の理想像、なんですけれどもね。また中村にとって自転車旅は「リフレッシュ」であり「目で見る音楽」であり「大なる連続性」だとも言った。

一度自分の演奏を行きつくところまで抽象化させた彼は、すでに「具体化時代」に入っていると語る。「即興にこだわり過ぎると完成度は下がる。完成度の下がったものを人前で演奏するのはごっつい精神力がいて、作品にするってことになればそれこそ1秒たりとも萎えたらあかんねん。そのためにはもっと体力蓄えておかなあかんねんけど、今はその時やない」。どちらかと言えば前作の『standards』でやったスロー・バラッドのテイストを、さらに洗練させて聴かせようという時期に入っ

ているとか。このツアーで聴かせる音楽も恐らくそういったものだろう。その表情は解き放たれた音に執着しないかわり、過去の栄光もあっさり捨てるシニカルな出家僧の顔をしていた。いまだに漂わせる身に染み込んだ抽象性も、過去の痕跡を払拭するための方法かと勘ぐってみたくなる。ソロと並行して始めたトリオにおける彼の変り身も、〈小雪〉や〈夏の思い出〉の別解釈を聴くこともひとつ、今後の楽しみとなってきた。



Makoto Nakamura



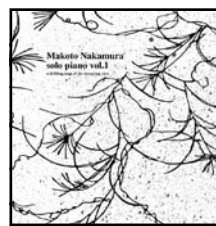
solo piano vol.2 -standards- 中村真

EWCD-0109 ¥2,500 (税込) 2006/1/20 Release

01. Waltz In Adventure (Makoto Nakamura)
02. Autumn Leaves (Joseph Kosma)
03. In A Sentimental Mood (Duke Ellington)
04. Corcovado (Antonio Carlos Jobim)
05. All The Things You Are (Jerome Kern)
06. Up Jumped Spring (Freddie Hubbard)
07. I Thought About You (Johnny Mercer, Jimmy Van Heusen)
08. Con Alma (Dizzy Gillespie)
09. The Days Of Wine And Roses (Henry Mancini, Johnny Mercer)

■バージョン
中村真 (p)

NEW RELEASE



solo piano vol.1 - a drifting map of the wavering view- 中村真

彩り深く景色を描き出す、気鋭のジャズピアニスト中村真、ソロアルバム第一作。

EWCD-0096 ¥2,300 (税込) 2004/8/21 release

01. 露音
02. Miss Morning
03. Blue Monk
04. 椰子の実
05. 更紗恋紗
06. 小雪
07. That Sunday That Summer

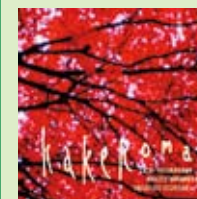
■バージョン 中村真 (p)

中村真参加作品



ツナガレタアオ/キムサク

EWCD-0055 ¥2,300(税込) 2002/11/14 RELEASE
調和と日本を意味する「和」。この二つの「和」を感じさせ、自分が子供だった頃を思い出させるような裸のサウンド。
01. エロティックブルー / 02. さささ / 03. じゃいけん / 04. オリエンタルムード
05. imitade / 06. デザート / 07. 素直な気持ちで
08. ハッピーアディクション / 09. ソノソノ
■バージョン
中村真 (p) 溝口恵美子 (vo) 光田 匠 (dsperc) 木村知之 (b)



KAKEROMA / 安カ川大樹トリオ

EWCD-0089 ¥2,300(税込) 2004/7/21 RELEASE
「死せるものと生きるものと垣根を感じない、魂の鳥」— 奄美体験をベースに書き下ろした安カ川作品を中心に、話題のトリオが音の渦を巻く!
01. Circle II / 02. Prism / 03. Kakeroma / 04. Minor Moment
05. Don't Mind / 06. Joy / 07. Thermal / 08. Shimauta
■バージョン
安カ川大樹 (tr) 中村 真 (p) 芳坂安洋 (dms)



LOCO / YA!3

EWCD-0067 ¥2,300(税込) 2002/12/21 RELEASE
名実ともに日本のトップベーシスト安カ川大樹、初のリーダーアルバム! 気鋭のメンバーを従えて歌うジャズ、全曲オリジナルで挑むトリオアルバム。
01. MONSOON / 02. CHILD PAINTING / 03. ANGEL'S GIFT / 04. LOCO
05. COMPLEX / 06. MISS MORNING / 07. WALTZ IN ADVENTURE
08. CIRCLE / 09. SUNDANCE / 10. TEARS
■バージョン
安カ川大樹 (tr) 中村 真 (p) 吉岡大輔 (ds)



TOKYO L.A.M.A / Various Artists

EWCD-0084 ¥2,600(税込) 2004/7/21 RELEASE
川崎の名作『マンボ・モンターージュ』録音の余波を受け、ロビー・アミンとペド・マルチネス、日本の若手実力派が急速召集されて生まれた話題作!
01. Collage / 02. Child Play / 03. West / 04. Lupin / 05. Dancin'
06. Complex / 07. Shimauta / 08. Horizon
■バージョン
川崎 哲郎 (tr) 石井 彰 (p) 安カ川大樹 (tr) 中村 真 (p) ロビー・アミン (ds) ペドロ・マルチネス (perc)

Everything in Buenos Aires



待望の第2弾『IZUMI』を聴きながら。

text & photography by @suetsugu (本誌編集長)



it saw, it heard and it wrote.



IZUMI - Buenos Aires Session Vol.#2

EWCD-2012 ¥2,500(税込)

1. Micro Takes 2 / No.1
2. Take 1
3. Before Pizza

Produced by Katsui Yuji, Yamamoto Seichi, Fernando Kabusacki



Chichipio - Buenos Aires Session Vol.#1

Mono Fontana, Fernando Kabusacki, Alejandro Franon, Santiago Vazquez meets, Yamamoto Seichi, Katsui Yuji

EWCD-2011 ¥2,500(税込) 2005/12/14 RELEASE

1. El Trio Chichipio / 2. After Pizza / 3. Micro Takes 1 / No.2
4. Micro Takes 2 / No.3 / 5. Micro Takes 1 / No.1 / 6. Friday 2
7. Friday 3 - No.4

Mono Fontana(syn), Fernando Kabusacki(g.ukulele,programming), Alejandro Franon(keys, paraguayan harp, p. sitar,accordion,voice), Santiago Vazquez(perc), 山本精一(g), 勝井祐二(vln)



KIRIE / Kabusacki Tokyo Session

EWGL-0005 ¥2,500(税込) 2004/10/10 RELEASE

アルゼンチンの新しい音楽シーンの中心人物、フェルナンド・カブサッキと、現在の日本を代表する即興演奏家たちが結ぶ新たな物語「KIRIE」 produced by 勝井祐二

01. El Orador y la Diosa de la Oscuridad / 02. El sueño de Kit / 03. Milton
04. Strawberry Bridge: la belleza de las gaviotas doradas / 05. El octavo día

■メンバー
Fernando Kabusacki (gsampler) 勝井祐二 (vln) / 山本精一 (g) / 鬼怒熊月 (g)
芳根安洋 (ds) / 岡部洋一 (ds) / 沼澤前 (ds)

山本精一・勝井祐二 (ROVO)プロデュース 〈アルゼンチン音響派スペシャル・ユニット〉ジャパン・ツアー 2006

- 7/1 (土) 東京 浅草アサヒ・アートスクエア (ゲスト: UA)
- 7/2 (日) 大阪 Bridge (ゲスト: 内橋和久 OORUTAICHI, YTAMO, 亀井奈穂子, 千住宗臣) クラブクアトロ
- 7/3 (月) 広島
- 7/5 (水) 京都 磔磔
- 7/6 (木) 名古屋 TOKUZO
- 7/7 (金) 東京 キネマ倶楽部

act: ROVO + アルゼンチン音響派スペシャルユニット

19:00 開場 / 20:00 開演 前売 ¥5,000 / 当日 ¥5,500

問: プランクトン (03-3498-2881) <http://plankton.co.jp/>

耳底の記憶といふのは面白い。こうしてデジタルな目玉が記録した画像を並べてみると余計にそう思ふ。つい先日手元に届いたばかりの Buenos Aires Session Vol.#2 を聴けば、さらにその想いを深くする。それは確かに調整卓の後方にある椅子に腰掛け、ビデオテープの残量を確認したりシャッターを押すために床に座り、六人の音楽的邂逅の総てを聴き、緊張から弛緩への細部までを見届けた際にスピーカーから流れていたサウンドのリアルな記録には違いないのだが、じぶんの耳が記憶している「記録されなかった」アルゼンチン公使館や Tonic のライヴ演奏のほうが、蟹気楼の如く「消えてしまった」即興音楽のほうがむしろ、妙な航跡を残しながらいまだに水面下を漂い、波紋を広げつつ海底の貝殻にも似た左右の器官を愛撫し、揺さぶりをかけているような錯覚さえを覚えるのだから不思議だ。もちろんそれは優劣の問題ではなく、「Chichipio」を聴いては「KIRIE」に戻り、新譜の『IZUMI』を聴いては再び『Chichipio』に魅せられるといふ永久運動のような静かな感動を3枚のCDは提供してくれるのだが、それでも「もう、決して取り戻すことができない」あの日の、あの刻の調べや響きがいまだに耳の未練をくすぐり、記憶の浜辺を迷わせる理由はどこにあるのだろうか。「想定内」のNYの空気よりも、圧倒的に「想定外」の街並みがわれわれを魅了したフェノスアイレスでの一週間、そして素晴らしいの一語に尽きるカブサッキたちの音楽的歓迎ぶり、それから十ヶ月の歳月が流れ、こうして画像を貼り付けてみるとNY滞在中や帰国後の多忙な日々にあつてはついぞ忘れていた「感動の破片」が記憶の糸で結ばれてくる。それを彼らが来日する前に整理したいのだが...

魂を震わせる音楽を世に出したい!

text by 沼田 順

アケタズ・ディスク：明田川荘之

OLD FOLKS Shibuya Takeshi Takeda Kazunori Quartet

MHACD-2313 ¥2,500 (税込)

- 01. Now's the Time
- 02. Old Folks
- 03. Let's Cool One
- 04. Round Midnight

■パーソネル： 武田和命 (ts) 渋谷 毅 (p) 川端民生 (b) 藤井信雄 (ds)



—いや〜アケタさん、レーベルやるわライブハウスやるわミュージシャンはやるわ物書きはやるわオカリナ作るわで、大儲けですね。—全然そんなことないよー。30年前とほとんど変わらないよー。

—いわゆる中央線ジャズって呼び方、ありますよね。あれはアケタさんが付けたんですか？

—あれはね、オーマガトキ（新星堂のジャズレーベル）立ち上げた村上さん（現在、国立ノートラックス）と、新星堂でやってた小冊子用に対談したときに、村上さんが提唱したネーミングなんだよ。

—でも村上さんの中では確実にアケタの店出演者というのが射程に入っていたでしょうね。グシャグシャでドロドロでいかにも西荻窪のアケタの店に集合する得体の知れない音。

—そうだね。まあオレも店やってレコード出してたから。

—アケタズ・ディスクが一番儲かったのっていつ頃なんですか？

—えーとね、武田和命さんの出した時かな。ちょうど武田さん亡くなって、まあ偶然的タイミングだったんだろうな。

—アケタさん、オレはね、高柳昌行アンダラー・ウェイブスのレコード（『850113』）を買ったのが最初なんです。いやー今頃の日本にもいいレーベルあるな〜と思って。そのレーベルを動かす機動力ってアケタさんの場合って何なんですか？

—自分で音楽やってるから、純粋に感動

できるモノを演りたいっていうのはあるじゃない。オレはアケタの店で魂が震えるような演奏も何度となく目撃してきた。板橋（文夫）であったり、本田（竹広）さんであったり、古澤良治郎とか、今村祐司とか、本当にオレは好きなんだよ。レーベルっていうのはほとんどそれと同じ、店をやってるのと同じ気持ちで、魂を震わせる音楽を世に出したいという気持ち。

—アケタズ・ディスクも31年目ですか。スタート当初はやっぱり自分の作品を発表したかったからなんですか？

—まあオレは大学生の時から演奏はしてて、その頃から自分の足場を固めたくて店やろうっていうのはあったのでレーベルもごく自然な流れで出来たという感じだね。

—アケタズ・ディスクはテキトーなネーミングが多いですよ。『大勘定』とか『布団』とか『枕』とか、最近はレーベル名までメタ花巻アケタ、とか『ね』の次が『の』とか、ふざけてるんですか？

—『大勘定』はね、オレ、本当に大きな勘定のことであったの。それで三上寛にそれ見せたらさ、「違うよ、大感情だよ」って。でも「大きな勘定って、考えてみゃ人生全で勘定で成り立ってるんだよな。」って、それであのタイトルになったの。

—アケタさん（正確には明田川さん）に取材しに行って、2時間半喋った。80%アケタさんの喋り。しかもどどん話は横道にそられてゆく。そして喋りの途中でお互い「えー、

何の話だっけ？」が数回。上記の会話はこの連載に関係する部分だけ抜き取ったものである。ものの10分くらいで済む。まるでアケタさんのピアノのようだった。波のように押し寄せてはその波が関係ない方向に進み「えー、どこのキーだっけ？」と戻ってまた波のように押し寄せるアケタさんのピアノ。さすがにミュージシャンやってる人のレーベルは改めて面白い。

1975年、自作の『エロチカル・ピアノ&グロテスク・ピアノ・トリオ』からアケタズ・ディスクをスタート。以降、つのだひろ、渋谷毅、高柳昌行、原田依幸、松風紘一、林栄一ら、昨年までに80タイトルの作品をリリース。ちなみにアケタさんは80タイトル、と言うと「100枚だよ、100枚、80タイトルじゃないんだよ、2枚組とか3枚組とかあるから、タイトル数じゃなくて枚数で数えるんだよ。」とおっしゃっていた。

いわゆる「中央線ジャズ」を象徴するレーベルのひとつで、西荻窪にあるアケタの店出演者を中心に、熱く純粋で大雑把で、温かくたくで濃いジャズをリリース。アケタズ・ディスクはアケタの店をパッケージングしたもの、と考えるとんでもない。もちろんパッケージングされたものはアケタの店のほんのごく一部を表しているにすぎないが、アケタさんにとっては店もCDも同じように純粋な音楽を伝えるための重要な「場」（メディア）であるのだ。アケタの店にもっと集客を！アケタズ・ディスクにもっと売上げを！

先月号の表紙刷新で先頭打者ホームラン級の喝采を浴び、本誌の女性ファン獲得にも大いに貢献してくれたタジマ画伯のイラスト。今月のジャケ画美術館は「ピアニスト特集」とリンクさせ、こんな人たちが…。

タジマ音楽堂

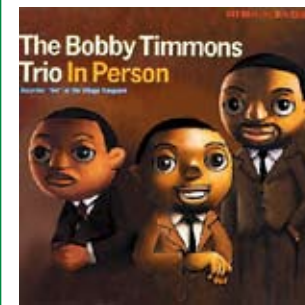
連載2

元ネタを知っているジャズマニアは思わず笑みをこぼし、ひさしぶりに棚から出して聴きたくなる——そんなタジマ画の世界を今月も！

絵と文
タジマヤスタカ



ジャズ



ボビー・ティモンズ・トリオ
イン・パーソン
ボビー・ティモンズ

ジャケットは3人ともおしゃべりさん、スーツ姿がキマってます。なんかどこぞの紳士服メーカーの広告写真みたいですね。

ティモンズの演奏、好き嫌いが別れるところでですね。嫌いな人はベタベタなソウルフル情緒過多みたいな感じがやなのかな。僕は好きなんだけどなあ。

メッセンジャーズを退団後、自分のトリオを組んで録音したヴィレージ・ヴァンガードでのライブ盤です。

ボビー・ティモンズ (p) ロン・カーター (b)
アルバート・ヒース (ds) '61年

曲は「枯葉」、「時さえ忘れて」、「朝日のように爽やかに」などのスタンダードと、ノリノリの「ソー・タイアード」、「ポプシー」などのオリジナル。「ダット・デア」はセット終わりのテーマ曲になっています。

1曲目の「枯葉」。軽快にドロドロとよく歌いながら、後半はお馴染みのブロックコードで。ロンの力強く音持ちのいいウォーキングがカッコいい。このアルバムは全編にわたってロン・カーターのベースが光っていて、「朝日のように爽やかに」などはベースソロ中心の演奏でなかなか聴きモノ。ヒースの堅実かつキレのいいブラシも快調です。3人とも息がよく合っていて、とてもよくまとまった演奏。



ソニー・クラーク・トリオ
(タイム盤)
ソニー・クラーク

同タイトルのブルーノート盤と比較されて何かとどうこう取り沙汰されますがどちらでもいいですよ。スタンダード曲中心のブルーノート盤に対してこちらのタイム盤は全てオリジナル曲。いい曲揃い、バックは実力あるベテラン二人がばっちり固めています。

ソニー・クラーク (p) ジョージ・ディヴィヴィエ (b)
マックス・ローチ (ds) '60年

モダンジャズ全盛の真只中だということに'59年、'60年あたりのクラークはどうもバツとしない感じなのですが（録音も年に3、4回づつしか無い）そんな中でもこのア

ルバムでは全体的に生き生きとしていてキレがあり、繰り出すフレーズやその音もびびりしている感じがあります。メロディアスによく歌い、程よいモタリ具合が生み出す気持ちいいグルーブ。イエ〜。

曲もバラエティに富んでいて、それがアルバム全体をカラフルなものにしています。この人が作る曲はホントどれもカッコよく黒くありながらもチャーミングですね。

純粋にたっぷりと「ソニー・クラーク」を聴きたい、堪能したい！という時には最適一枚かと。

なお、このアルバムをほとんどまんなまホーン入りでやってるのがブルーノートの「マイ・コンセプト」で、そちらも合わせて聴くとまた楽し。



ザ・ニュー・スタンダード
ハービー・ Hancock

スタンダードソングといえば古き良き時代のミュージカルナンバーやポピュラーソングなどの事ですが、このアルバムでは、プリンス、シャーデー、ビートルズ、ステイビー・ワンダー、サイモン&ガーファンクル、などなど比較的最近の様々なポップスを「新しいスタンダード」として取り上げています。

こういうのって、ともすると安易なポピュラーソングカバー集、ジャズチャンチャカチャンになりがちですが新しい曲であっても、ここではあくまでもスタンダードソング、素材として扱うハンコックの調理の腕が光ります。マジックタッチ健在。

素材を思い切って大胆に取り扱ったりする事はあって

も変に色々調味料を加えすぎたりこね練りまわしたりはせず、ちょっとしたとらえ方、もの見方、塩加減、火加減で調理している感じでしょうか。一流の人ってホントちょっとした事でその場の空気を作っちゃったり、ガラッと変えたりできちゃうんですね。ほかのメンバーもまた名うての剣客みたいな人ばかり。キレのよいインタープレイ、セッションが楽しめます。

マイケル・ブレッカー (ss&ts)
ジョン・スコフィールド (g) ハービー・ハンコック (p)、
デイヴ・ホランド (b) ジャック・ディジョネット (ds)
ドン・アライアス (perc) '96年

この男、「ワッツ」がいてこそ、



連載 vol.4

text by 小沼純一



Long Ago & Far Away / Charlie Watts

01. I've Got a Crush on You
02. Long Ago (And Far Away)
03. More Than You Know
04. I Should Care
05. Good Morning Heartache
06. Someday You'll Be Sorry
07. I Get Along Without You Very Well
08. What's New?
09. Stairway to the Stars
10. In the Still of the Night
11. All or Nothing at All
12. I'm in the Mood for Love
13. In a Sentimental Mood
14. Never Let Me Go

【パーソネル】
 チャーリー・ワッツ (ds)
 ビーター・キング (as)
 フライアン・レモン (p)
 ジェラルド・ブレンサン (flh, tp)
 デヴィッド・グリーン (b)
 バーナード・ファウラー (vo) 他

ローリング・ストーンズのコンサートに行ってきた、しばらくテンションが高いままだ。60を過ぎたメンバーが2時間半にわたって演奏し、ステージ・アクションを圧倒的に見せつけるのに接して、いつにもない揺れを心身の奥に感じ、それがずっと残っている。

オーディエンスを惹きつけてやまないミック・ジャガーやキース・リチャーズは、スクリーンに映った巨大な姿と生身を視覚的に交差させるのだが、一方で、黙々と、とロックスのミュージシャンを形容するのは奇妙といえは奇妙だが、ドラムスを叩きつづけるチャーリー・ワッツは、フロントの三人とは違うけれども、ストーンズの音楽の安定を保障する。ときに画面に映しだされるワッツはボーカルフエイス。ドラム・セットの脇には大きな紙に演奏曲目がキーとともに記されている。コンサートが終わりを迎え、メンバーがならんで肩を組むときにも、髪をきれいにセットしたシックなみなのこの男は、けつして大仰な身振りをせずに、さうさと楽屋へひきあげてゆく。しかし、ローリング・ストーンズの要はここにある。これはチャーリー・ワッツのバンドなんだ。彼がいなかったら、俺たちはグループを組めなかっただろう。(キース・リチャーズの発言)

世間での評価は知らない。だが、チャーリー・ワッツ、正式にはチャールズ・ロバート・ワッツがストーンズとはまるで別のところでジャズ・アルバムは、どれもともうきうきする、楽しいものだ。そもそもワッツはジャズをこよなく愛し、ロックンロールなど評価していなかった。特に好きになろうともしなかった。ストーンズのメンバーと一緒にやったのは、彼らとやっているほうが、自分が尊敬する偉大なジャズ・マスターの演奏を生で聴ける機会が増えると思ったからだ、とまで言っている。そんなワッツがジャズをやるのはやっと90年代、1941年ロンドン生まれの彼が50歳代になってからのことだ。

おなじ「チャーリー」の名を重ねながら、チャーリー・パーカーへのオマージュを表した『フロム・ワン・チャーリー』、バーナード・ファウラーをフィーチャーした大編成の『ロング・アゴー&フオー・アウェイ』、どちらも「新しさ」や「現代的」とはほとんど無縁(ジム・ケルトナー・プロジェクト)とはいささか毛色が異なる。だからこそ、ジャズ・ミュージシャンとして一線で活躍する人たちは違いうりラックスした秀開気がある。これはストーンズで有名になつていく余技だと貶されることと同義なのかもしれないけれど、それでいいんじゃないか。恥ずかしげもなくパーカーっぽいビ・バップを楽しくやる特権も、エリントンやパーカーのスタンダードに酔いながらもリズム・キープする自由だつてあるわけで、聴き手はそれを感じると。とはいえ、ほとんどサウンドそのものを支える役割のワッツから、バスのぼム、つ、ぼム、つ、あるいはスネアの、ぼシ、つとしたアクセントがひびくと、音楽は陽気に、スムーズにながれながら、それでいてちょっと表情がひきしまる。あ、ワッツがいる、と思う。

最近みことな翻訳がでた、大部のストーンズ伝のなかで、フランスの作家、フランソワ・ポンはこんなふう書いている——「大きな箱に張られた皮を右足で叩く音は、爆弾の音に何とよく似ていることだろう。(…)この男が繰り出す爆撃の音に、バンドのリズムはかかっているのだ。それは、ストーンズの音楽言語の最も重要な秘密でもある。」(國分俊宏・中島万紀子訳 現代思潮新社刊)

いつも存在を誇示するわけではない。でも、サウンドはこの男のビートのうえで成り立っている。音楽は変化するのが当たりまえだし、それを良しとするが、そうではない、変わらなさを良さの点で、チャーリー・ワッツの「ジャズ」は、ローリング・ストーンズの「ロックンロール」ともつながっている、「おなじ」なのかもしれない。

分娩室のオーネット・コールマン

text by
早坂沙知
(サクソ奏者)



早坂沙知略歴 (サクソ奏者)

大学卒業後に[Sir Up]というユニットで新宿 Pit Inn デビュー。映画音楽やCM音楽も手がける。1987年ハンス・ライヒル(独ギターリスト)に招かれ、初のヨーロッパツアーを行ない「形にとらわれない自由な音作り」と高く評価され、1990年からNYを中心に活動を。以後もドイツ、オランダ、韓国などのジャズフェスティバルに招聘され人気を博す。レオ・スミス(tp)、金大煥(per)、マル・ウオールドロン(p)、ピリー・バング(vn)など多くの海外ミュージシャンたちと共演し、2004年に新しいグループ「MINGA」がジョン・ソンのレーベルから世界発売された。2006年2・26のバースデイコンサートは20回目を迎え、現在も山下洋輔(p)、おおかた静流(vo)、原田芳雄、Think Tankなどジャンルにこだわらず演奏の場を広げている。

minga2006 ツアー

- 5/26,27 (金、土) 名古屋「Jazz in lovely」052-951-6085
- 5/28 (日) 大阪堺市「ゼロワン・ネーブルハウス」072-221-2000
- 5/29 (月) 京都「磯崎」075-351-1321
- 5/30 (火) 広島「Live Cafe Jave」082-246-2949
- 6/03 (土) 鳥取県「岩井窯・野外コンサート」0857-73-0339
- 6/04 (日) 大阪市東区「Ten On」06-4254-0172

公式ホームページ
<http://www.ne.jp/asahi/stir/up/>



オンキヨーのAV試聴室「マリンシアター」でご自分のライブDVDを見終わって早坂さんは、アルト・サクソで好きじゃなかったのと語り始めた。プラス・バンドに入って渡された楽器に緑青がこびりついていれば誰だって嫌なものだ。一週間我慢した早坂さんは自分のアルトを買おうと楽器屋に走った。ところが、楽器屋さんが彼女に見せたカタログの写真に一目ぼれして、音も聴かずに頼んだのはシルバーのソプラノ・サクソだった。アルト・サクソにどうしても馴染めない早坂さんの気持ちを変えたのはオーネット・コールマンだった。オーネットの音色とかフレーズを聞くと勇気がもらえるの。元氣になりたい時にはいつもオーネットを聞くの、と早坂さんは語ってくれた。

学生時代、私はアルトサクソのキンキンした音色があまり好きではありませんでした。惹かれるのはテナーサクソ奏者ばかり。自分の出すアルトの音色もテナーに近いと言われてきましたが、そんな私が「アルトサクソの音もいいな」と初めて思ったミュージシャンが「オーネット・コールマン」です。落ち込んだり、迷ったりした時にいつも聴きたくなる音。

といっても、実際に目の前で彼の生音を聴いた事はありませんが、CDやレコードからも伝わる太くて豊かな音色。

そして彼の歌うような明るいフレーズを聴くと「そうか、頑張るぞ〜!」ってやる気がムクムクと出てくる、気がつく私にとってオーネットは活力剤のような存在になっていました。

12年前に初めて子供を出産する時に「先生、分娩室でCDかけてもらってもいいですか?」と頼んだところ「そういう人の為に、分娩室にいいスピーカーを備えてあるんですよ」と大喜び。

さっそくホルスト『惑星/ジュピター』、スタン・ゲッツのラスト・ライブ、そしてオーネット『In All Languages』の3枚を持って分娩室へ向かいました。もちろんDJ役を務めてくれたのは主人(永田利樹 bass)ですが、どのCDをどの順番でかけるかはお任せ。彼が最初に選んだCDはホルストでした。

分娩室で先生を待つ間「ヒー、ヒー、フー」と練習しながら横たわった途端「グワ〜ン、ゴォ〜ン」とオドロドロしい音が室内に鳴り響き…私としては『惑星』の中の木星/ジュピター」だけをかけてもらいたかったのに、間違えて「火星」をかけてしまったようです。大声で「違うよ〜、お願いだからジュピターにして〜!」と悲鳴をあげ、ようやく気がついてくれましたけど(笑)、その数時間後、ちょうど出産した時にかかっていた音楽がオーネットの『Mother of the veil』でした。まさか息子が選んだ訳ではないですが、この曲は私の初CD『Straight to the core』の一曲目に取り上げた曲。神様のいたずら(?)に驚きながらも安産だった事はいまでもありません。

結婚当時、NYのダウンタウンに3ヶ月ほど住んでいた時も、オーネットの自宅の電話を友人から教えてもらい、ドキドキしながらダイヤルを回すと、あいにく留守番電話。「メッセージをどうぞ」などの言葉は一切なく、オーネットのサクソとオルガンのデュオが延々と流れているだけ。でも間違いなくオーネットの音! あまりの格好良さで留守電を聴くために5、6回ダイヤルを回してしまいました(苦笑)。

結局、オーネット・コールマンの音楽と出会えた事で今の自分があるような気がします。私も聴く人、出会った人たちに元気にするような音作りを目指してこれからも吹き続けて行きたいと思います。

今回の来日公演が最後になるだろうと噂されていますが、まだまだ現役で私たちに元氣と勇気を与え続けて欲しいと願っています。オーネット万歳!

編集協力:ピンポイント

High Difintion Sound

**CDを超えるクオリティ
24bit/96kHzで配信中!**

綾戸智絵が...

大石 学トリオが...

アッシュケナージが...

アーティストの息づかいが聞こえる!
 綾戸智絵、大石学トリオ、佐藤 允彦、今出 宏、田中信正KARTELLらのJAZZナンバーや、名盤と呼ばれるクラシックの名曲を取り揃えました。

HD高品質音楽配信サイト
e-onkyo music store
<http://music.e-onkyo.com/>
 ※ はオンキヨーの商標です。



© NAMI OGATA

尾形奈美

高城真由美出身、写真家。2007年 Chicago Jazz Festival に参加して、写真家として活動してきた。2010年、米国の写真雑誌「Photo Review」の「国際写真展」に「シカゴ」をテーマにした作品を出品し、今年2月には「シカゴ」初の展覧会を開催した。

南72番ストリートのラウンジでミニットナイト

text by 尾形奈美

火曜日の夜には、毎週とり憑かれたようにシカゴのサウス72番ストリートにあるNew Apartment Lounge というクラブに通っていた。ドアを開けると、酒とタバコと油っぽいフライドチキンが混ざったような臭いが全身に絡みつく。

シカゴは大雑把に言うと、黒人街のサウスサイドと白人街のノースサイドに分かれているのだが、シカゴのサウスサイドと言えば有名な凶悪犯罪多発地帯である。旅行ガイドには必ずタクシーで行けと書いてある。それでもここに通う理由には、チコ・フリーマンの父、ヴォン・フリーマンが毎週出演しているから、という以上に、ヴォンを取り巻くこのNew Apartment Lounge の風景に何とも言えない魅力があった。個性豊かな常連たちや、平気で客を怒鳴りつける名物バーテンダーのウィージー、湯気の立つ

ビザの箱を持って堂々とステージを横切る宅配のにいちゃん、演奏中のヴォンに抱きついて騒ぐ太っちょのおばちゃんたち。下町の居酒屋みたいな光景がシカゴのクラブで当たり前のよう毎週くり広げられる。

10時半ころ始まるヴォンの演奏は、息もつかせぬ勢いで12時半近くまで続く。今年でおん年84歳。いつしか店は客で満杯となり、ヴォンのセットが終わると、今度は午前3時まで若いミュージシャンたちのジャムセッションとなる。普通のジャムセッションならホストバンドがいて順番に演奏させるのだが、ヴォンのところはちよつと違う。ヴォンは一切口を出さずに子どもたち(?)にセッションの一切合財を任せろなのだ。昔はヴォンも一緒に参加していたそうだが、今はカウンターに座って飲みながらゆっくり若者たちの情熱的なバトルを楽しむ

ほうがお好みらしい。もちろん、私も朝まで付き合う。が、何しろカメラを構えて這いずり回ったりヴォンや常連客と笑い転げたり。2時を過ぎた頃にはお腹が空いてしまう。当然そんな時間外に出て行ったら命はないので、結局、夜食用のおにぎりを持って行くことにした。カウンターにおにぎりを取り出し、おもむろにかじりつく。中身は大概、具材を考えなくてすむ炊き込みご飯。すると、ヴォンのドラマーのマイク・レイナーとギタリストのマイク・アラマナが珍しがって寄ってくるので、持っていくおにぎりの数は毎回4つ5つとバンドメンバーの分まで徐々に増えていった。これじゃ田舎の世話焼きおばちゃんみたいじゃないかと思いつつも、ジュースでご飯を流し込み、朝までうなるトランペットやサクスの音に、毎週おもう存分酔いしれるのだった。

Jazz of LIFE

シカゴと夜と音楽と

The live line!

5月の新宿ピットイン

【夜の部】

開場 PM7:30 開演 PM8:00 ¥3,000~(1DRINK付)

SHINJUKU PIT INN

〒 160-0022
2-12-4 ACCORD BLDG. B1
Shinjuku shinjuku-ku Tokyo JAPAN
☎ 03-3354-2024
http://www.pit-inn.com



■ 山下洋輔 ゴールデン・ウィーク 3DAYS ■

5月1日(月) SESSION #1
山下洋輔 (P) 金子飛鳥 (Vn)
柳原旭 (el-B) 八尋知洋 (Per)
5月2日(火) NEW QUARTET
山下洋輔 (P) 柳原旭 (el-B)
小笠原拓海 (Ds) 米田裕也 (As)
5月3日(水) SESSION #2
山下洋輔 (P) 大友良英 (G, Electronics)
中村達也 (Ds)



山下洋輔

◎ 新宿ピットイン (店頭販売のみ、13時より)、チケットぴあにて、4/1(土)より
チケット (開場時優先入場整理番号付) 前売り開始。

5月4日(木) Tipo CABEZA ¥4,000
佐藤彦彦 (P) 加藤真一 (B) 岡部洋一 (Per)

■ 板橋文夫 2DAYS ■
5月5日(金) 板橋文夫 (P) 林栄一 (As) 井野信義 (B) 外山明 (Ds)
5月6日(土) 板橋文夫 (P) 井野信義 (B) 小山彰太 (Ds)
片山広明 (Ts) 田村夏樹 (Tp)
吉田隆一 (Bs) 太田恵資 (Vn) 外山明 (Per)

5月7日(日) 小林洋子 DUO
小林洋子 (P) 鈴木徹大 (G)

5月8日(月) 渋谷毅 ORCHESTRA ¥3,500
渋谷毅 (P) 峰厚介 (Ts) 松風敏一 (As) 林栄一 (As) 津上研太 (Sax)
松本治 (Tb) 石渡明廣 (G) 上村勝正 (B) 古澤良治郎 (Ds)

5月9日(火) 松風敏一 カルテット
松風敏一 (Sax/F) 加藤崇之 (G) 水谷浩章 (B) 外山明 (Ds)

5月10日(水) SYNAPSE
加藤崇之 (G) さがゆき (Voice)

5月11日(木) ラクダカルテット
水上聡 (Key) 林栄一 (As) 佐藤帆 (Ts) 類家心平 (Tp)
水谷浩章 (B) 外山明 (Ds)
中村敬 (Vo)

5月12日(金) ブルース・大沼スペシャルセッション
ブルース・アイゼンバイエル (G) 大沼志朗 (Ds) 森順治 (Sax)

5月13日(土) ZEK オーケストラ
清水くるみ (P) 片山広明 (Ts) 林栄一 (As) 松本健一 (Bs)
渡辺隆雄 (Tp)
米木康志 (B) 本田珠也 (Ds)

5月14日(日) 故本田竹広追悼セッション ¥3,500
開場 14:30 開演 15:00~22:30 (終演予定)

井上淑彦、植松孝夫、白庭潤、梅津和時、大森明、坂田明、高橋知己、中村誠一、林栄一、本多俊之、松風敏一、峰厚介、森田修史、山口真文 (Sax)
五十嵐一生、河東伸夫、辰巳光英、中村恵介、日野靖正、松島啓之 (Tp)
後藤篤、福村博、向井滋春 (Tb)
秋山一将、橋本信二、増尾好秋、宮崎健、三好功郎 (G) 今出 宏 (Har/Vo)
荒武裕一朗、市川秀男、大口純一郎、幸島文雄、本田竹広
佐藤彦彦、佐山雅弘、清水くるみ、寺下誠、中島さち子、モヒカーノ関、山下洋輔 (P)
荒巻茂生、安東昇、金子健、小杉敏、是安則克、紙上理、鈴木勲、鈴木良雄、島山芳幸、古野光昭、望月英明、米木康志 (B)
井上功一、大島洋、橋本卓司、齊藤良、ジョージ大塚、セシル・モンロー、藤山英一郎、永原元、古澤良治郎、本田珠也、守新治 (Ds)



本田竹広

今村祐司 GROUP
今村祐司 (Per) 松風敏一 (Sax) 加藤崇之 (G) 渋谷毅 (P, Or)
小泉P克人 (B)
古澤良治郎 (Ds)
5月23日(火) Eni Yamamoto NY Trio ¥3,500
山本恵理 (P) デイヴ・アンブロジーオ (B) 竹内イクオ (Ds)
5月24日(水) Ubiquitous (コピトス)
金子飛鳥 (Vn) 鬼怒無月 (G) ヤヒロトモヒロ (Per)
5月25日(木) 本田珠也 カルテット
本田珠也 (Ds) 五十嵐一生 (Tp) 吉澤はじめ (P) 米木康志 (B)
5月26日(金) 巻上公一「月下のエーテル」CD発売記念!

5月15日(月) チコ本田 GROUP
チコ本田 (Vo) 峰厚介、竹内直 (Sax) 吉田桂一 (P) 荒巻茂生 (B) 小松伸之 (Ds)

■ 酒井俊×内橋和久 2DAYS ■

5月16日(火) 酒井俊 (Vo)
内橋和久 (G, Effects)
ゲスト: 林栄一 (As) 外山明 (Ds)
5月17日(水) 酒井俊 (Vo)
内橋和久 (G, Effects)
ゲスト: 坂本弘道 (Cello) 岡部洋一 (Per)



酒井俊

5月18日(木) 角田健一 BIG BAND
開場 19:00 開演 19:30 ¥4,000
角田健一 (Tb, 作、編曲) 田中哲也、浦田雄揮、高瀬龍一、宮本やすし (Tp)
今尾敏道、土井徳浩、川村裕司、河村英樹、丹羽康雄 (Sax)
中路英明、橋本佳明 (Tb)
五十嵐誠、朝里勝久 (Tb) 井上祐一 (P) 古西忠哲 (B) 小山太郎 (Ds)
5月19日(金)
中村達也マイセルフポートレート オンパーカッションソロ
中村達也 (Ds, Per) ゲスト: 佐土原台介 (即興詩人) 白崎映美 (Vo)

カラモコ・カマラ (ジャンベ, ボロン, Vo)

5月20日(土) 幸島文雄 TRIO
幸島文雄 (P) 井上陽介 (B) 高橋信之介 (Ds)
5月21日(日) quartz-head council 01

クォーツ・ヘッド
【フジワラ・ディスク】(Sax)
リールバスター (Syn)
オマール (Djambé, Vo)



フジワラ・ディスク

5月22日(月) 今村祐司 GROUP
今村祐司 (Per) 松風敏一 (Sax) 加藤崇之 (G) 渋谷毅 (P, Or)
小泉P克人 (B)
古澤良治郎 (Ds)

5月23日(火) Eni Yamamoto NY Trio ¥3,500
山本恵理 (P) デイヴ・アンブロジーオ (B) 竹内イクオ (Ds)

5月24日(水) Ubiquitous (コピトス)
金子飛鳥 (Vn) 鬼怒無月 (G) ヤヒロトモヒロ (Per)

5月25日(木) 本田珠也 カルテット
本田珠也 (Ds) 五十嵐一生 (Tp) 吉澤はじめ (P) 米木康志 (B)

5月26日(金) 巻上公一「月下のエーテル」CD発売記念!

巻上公一 (Vo, theremin)
梅津和時 (As, B-cl)
津上研太 (As, Ss)



巻上公一

5月27日(土) ジョージ大塚 NIGHT
ジョージ大塚 (Ds) 深沢真奈美 (P) 高山夏樹 (B)

5月28日(日) モヒカーノ関 BAND
モヒカーノ関 (P) 藤田明夫 (As) 鈴木雅之 (Ts) 中路英明 (Tb)
高橋ゲタ夫 (B)
平川象士 (Ds) 今福健司 (Per)

5月29日(月) ☆☆☆ (三日月) →
青木タイセイ (Tb el-B Key etc)
芳垣安洋 (Ds, Per) 高久久美子 (Vib, Per)
鈴木徹大 (G)



芳垣安洋

5月30日(火) EMERGENCY!
芳垣安洋 (Ds) 大友良英 (G, Electronics)
齊藤良一 (G) 水谷浩章 (B)

5月31日(水) アラマキバンド+1
荒巻茂生 (B) 竹内直 (Ts, B-cl) 吉澤はじめ (P) 本田珠也 (Ds)
ゲスト: 峰厚介 (Ts)



INFORMATION

Jazz Today 017

Jazz Today

NEW DISC INDEX

LUPIN THE THIRD JAZZ the 10th ~ New Flight ~

Yuji Ohno & Lupintic Five VAP VPCG-84831 ¥2,500(税込)
2006/4/26 Release



「LUPIN × JAZZ」の大ヒットシリーズ第10弾！
ニュープロジェクト、Yuji Ohno & Lupintic Five による
HOTなLPサウンド登場。

01. HOT SAMBA (新曲オリジナル)
02. THEME FROM LUPIN III - ルパン三世のテーマ -
03. LOVE THEME - ルパン三世 愛のテーマ -
04. MANHATTAN JOKE / 05. LOVE SQUALL
06. TREASURES OF TIME - 炎のたからもの -
07. ISNT IT LUPINTIC? / 08. TORNADO / 09. ZENIGATA MARCH
10. PARTY'S OVER (新曲オリジナル)

大野雄二 (Piano) 江藤良人 (Drums)
俵山昌之 (Bass) 松島啓之 (Trumpet)
鈴木央紹 (Sax) 和泉聡志 (Guitar)

Starlite Quartet

星図~Astral Chart Get back Records GETB-1003 ¥1,500(税込)
2006/3/25 Release



リスナー・オーディエンスが求める音楽と自らの表現したい
音楽とのバランスに常に聴き手の立場から心を砕く。その
為か、彼女が音を奏で始めると不思議と人が集まってくる
という、生まれながらの華も持ち合わせている。スタン
ダードに敬意を払いつつも、そのみに傾倒しがちな一般
的ジャズミュージシャンとは明らかに一線を画している。

01. The Friction / 02. I Am Here / 03. Kokoko / 04. Swiss Miss
05. EJ / 06. Prickeene / 07. Bop Special / 08. Stardust

Miwako Ikeda (Alto Saxophone)
Kiichi Futamura (Piano)
Alan Gleason (Contrabass)
James "JC" Childs (Percussion)

Patrick Moraz

RESONANCE VME VGDWNF-0008 ¥3,150(税込)
2006/5/11 Release



陽気な 05. Sundance、雄爽とした 06. Moondance、ファン
キーな 08. Colloids Bounce Arounds そのユニークなスタイル
、驚くほどのバリエーション、RESONANCE は真の傑作、
芸術作品であることは間違いない

01. Vortex of Life Movement 1 / 02. Vortex of Life Movement 2
 03. Vortex of Life Movement 3 / 04. Vortex of Life Movement 4
 05. Sundance / 06. Moondance / 07. Resonance
 08. Colloids Bounce Around / 09. Standing In The Light
 10. The Light / 11. Birds On A Wire
- COMPOSED AND PERFORMED BY PATRICK MORAZ

バリー・マイルス

フージョン・イズ GRYPHON MZCS-1091 ¥2,400(税込)
2006/4/26 Release



通好みのキーボード・プレイヤー、バリー・マイルスの代
表作とされる GRYPHON 盤が遂に復刻！

01. タンドゥーリ
02. フォロー・ミー
03. カントリー・マイルス
04. サンライズ
05. ストリームス
06. ルーツ

バリー・マイルス (key,vib,ds)
ヴィック・ジュリス (g)
ジョン・プア (b)
テリー・シルバーライト (pec)・・・他

フランコ・アンブロゼッティ

スリーピング・ジプシー GRYPHON MZCS-1092 ¥2,400(税込)
2006/4/26 Release



CTI サウンドの立役者、ドン・セベスキーのアレンジによ
るライト・テイストなサウスイート・ジャズ・アルバム。

01. スリーピング・ジプシー / 02. スカイラーク
03. ルガノ・レディ / 04. ジョアンナ
05. デモセル

フランコ・アンブロゼッティ (tp)
エディ・ダニエルズ (fl,as)
ジョー・ベック (g)
ロン・カーター (b)
ジョルジュ・グルンツ (p)
バリー・マイルス (key)
グラディ・テイト (ds)
ホルティエニョ (pec)

グラディ・テイト

**アフター・ザ・ロング
ドライブ・ホーム** SKYE MZCE-1093 ¥2,400(税込)
2006/4/26 Release



人気ドラマ、グラディ・テイトのヴォーカル・アルバム
の中でもレア・アイテムとなっていた SKYE 盤が待望の C
D化！

01. プロローグ / 02. アフター・ザ・ロング・ドライブ・ホ
ム / 03. フォロー・ザ・バス / 04. アイ・キャン・デリヴァー
05. アイ・シンク・イツ・ゴイング・トゥ・レイン・トゥデイ
06. ゼアス・ナツィング・ピトウィーン・アス・ナウ / 07. イン
マイ・タイム / 08. インターロード / 09. ブリッジ / 10. アイ
ル・トライ・アゲイン / 11. スーサイド・イズ・ベイレン
ス (M.A.S.H より)

グラディ・テイト (vo,ds) / ロン・カーター (b)
ジェローム・リチャードソン (as,fl) / ジョージ・リッチ (cl)
フィル・クラウス (pec) / ハロルド・ウィラー (arr) 他

諸田富男六重奏団

TOMMY A GO GO HMVP MH-1002 ¥2,500(税込)
2006/3/20 Release



01. ALONG CAME BETTY / 02. ARE YOU REAL / 03. TAKE YOUR
PICK / 04. FAIR WEATHER / 05. I REMEMBER CLIFFORD
06. LOTUS BLOSSOM / 07. I'M GETTING SENTIMENTAL OVER
YOU / 08. HARLEM MARDIGRAS / 09. MOANIN'

諸田富男 (drums/leader)
宮本やすし (trumpet/music director/arranger)
宮崎勝央 (alto sax)
岡崎正典 (tenor sax/arranger)
海野雅成 (piano)
矢野伸行 (bass)
ゲスト
青木タイセイ (trombone)
竹内郁人 (alto sax)
石田衛 (piano)

Sunrice cafe

Gentle Winds G.W.P SOUND GWP-0501 ¥2,800(税込)
2006/4/7 Release



FM のオンエアや有線ジャズ・チャンネルを聴いている
ような心地よさがあるところは不思議な魅力だと言っ
てみよう。芯はしっかりとジャズなビバップである。
「JAZZ LIFE 4月号」より

01. sunrice cafe / 02. bird's report
03. b-rent / 04. elmhurst
05. rock wood / 06. footjam
07. lady hip licks / 08. walkin' alone
09. buzz / 10. escape

岩崎恵子 (Piano, Keybord)
和田清茂 (Guitar)
福栄宏之 (Bass)
江森文男 (Drums, Per)
みね栄二郎 (Sax)

Gipsy Romance

Live DVD -La Campanella- @RECORDS GR-D5001 ¥3,800(税込)
2006/3/27 Release



01. ラ・カンパネラ
02. 28の前奏曲より 7番
03. アルルの女
04. 亡き王女のためのパヴァーヌ
05. 四季より「春」
06. ラ・カンパネラ (Special Fire Version)
07. カヴァレリアスステイカーナより「間奏曲」

寺西 勝仁 (Guitar) / 佐藤 裕一 (Drums)
木原 秀憲 (Keyboard) / 寺西 昭仁 (Keyboard)
和地 輝仁 (Bass)

Eric Alexander Quartet

The Live - at The KEYNOTE +1 VIDEOARTS VACZ-1047 ¥1,890(税込)
2006/4/19 Release



現在、誰もが認める名実共に NO.1 のテナー・サクソフナー、
エリック・アレキサンダーの 99 年 3 月に今は無きジャズ・
クラブ、原宿キーンにて行なわれた来日公演を収録し
たライブ・アルバムが、当時 CD に収録されなかった未発
表曲「アローン・トゥゲザー」を追加して遂に再登場！

01. The Bee Hive / 02. Maybe September / 03. In The Still
Of The Night / 04. Edward Lee / 05. A Nightingale Sang In
Berkeley Square / 06. Stan' s Shuffle / 07. Alone Together*
- *未発表ボーンラス・トラック

<メンバー>
エリック・アレキサンダー (ts) / ハロルド・メイバーン (p)
ナット・リース (b) / ジョー・ファーンズワース (ds)

Grant Stewart

Estate VIDEOARTS VACM-1282 ¥2,940(税込)
2006/4/19 Release



「歌うダブル・テナー」に酔いしれる。
スペシャル・ゲストに親友エリック・アレキサンダーを迎
え、歌い上げるテナーに魂を感じさせるグラント・ステ
ewart が放つ来日記念盤となる会心のニュー・アルバム

01. Systems / 02. Soul Station / 03. Rain Check / 04. Estate
05. Carvin' The Rock / 06. 3 For Carson / 07. Jacqueline
08. Cool Struttin' / 09. Felicidade

グラント・ステュワート (ts) / ジョー・コーン (g)
エイフッド・アシュリー (p) / ジョエル・ファアース (b)
フィル・ステュワート (ds)

スペシャル・ゲスト：
エリック・アレキサンダー (ts) on 1 & 6

Senti Toy

私の運命線 intoxicate records INTX-1005 ¥2,600(税込)
2006/2/22 Release



01. How Many Stories Do You Read On My Face
02. Say A Word
03. More Than The Fingers Of My Hands.
04. The Language I Cry In
05. And Then? And Then?
06. Because I Am Woman
07. You Got Breath
08. When I Dance
09. Kohima
10. Berimbau

Senti Toy - g, vo / Tony Cedras / Fernando Saunders
Brandon Ross / Calvin Jones / Damon Duewhite / A.Sivamani
Xiomara Laugar / Emma kato / Nhumu Threadgill / Yala Toy
Jonathan Finlayson / Adam Kolker / Ted Daniel / Jose Davila

BOBBY PREVITE

THE COALITION OF THE WILLING ropeadope Records PCD-23773 ¥2,415(税込)
2006/4/21 Release



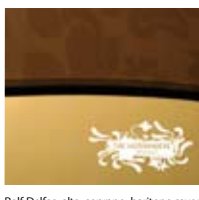
これぞ冒険ジャズ・レーベルの真骨頂！！
Ropeadope からとんでもないスーパー・ユニット出現！！
超ドリーム・ユニットによるスタジオ録音盤！！

01. THE MINISTRY OF TRUTH / 02. AIRSTRIP ONE / 03. VERSIFIC
ATOR / 04. THE MINISTRY OF LOVE / 05. OCEANIA / 06.
THE INNER PARTY / 07. MEMORY HOLE / 08. ANTHEM FOR
ANDREA

Bobby Previte (ds, perc) - all tracks / Charlie Hunter (g, b) - all tracks except for track 8
Jamie Saff (org, b) - all tracks / Stew Cutler (harmonica, slide-g) - tracks 1, 6 & 7
Steven Bernstein (tp) - tracks 2, 3, 5, 7 & 8 / Skerik (sax) - tracks 2, 3, 5, 7 & 8 / Stanton Moore (ds) - track 5

THE JAZZINVADERS

UP & OUT Social Beats PCD-23772 ¥2,415(税込)
2006/4/21 Release



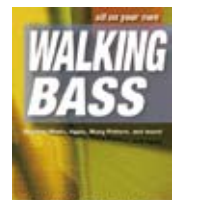
既に Vinyl シーンでは話題騒然のこれがオランダ版ファイ
ヴ・コーナース・クインテット！！サ・ジャズインヴェ
ダーズがヨーロッパ・ニュージャズ・ムーヴメントの最前
線に躍りだす無敵のデビュー・アルバム登場！！ファイ
ヴ・コーナースよりもダンサブルで分かりやすく、もっと
カジュアルな魅力に溢れたフレッシュさが魅力！！

01. BONGA BONGA JAZZ / 02. GO AHEAD / 03. DUTCH FLIES
04. MOVEMENTS / 05. LOVE AND HAPPINESS / 06. WO YA
07. LICKS AND BRAINS / 08. UP & OUT / 09. BLACK / 10. DIE
ERSTE KUGEL / 11. NO NONSENSE (bonus track for Japan)

Rolf Delfos: alto, soprano, baritone saxophone / Tom Beek: tenor saxophone / Jan van Duikeren: trumpet / Erwin
Hoonweg: piano / Marius Beets: double bass / Phil Martine: drums and percussions / vocals on "Movements" by
Mette Buril / vocals on "Love & Happiness" by Dick Rienstra / vocals on "Black" by Linda Bloemhard / Govert van der
Kolm and Daniel Moura played percussion on "Go Ahead" and "Up & Out" / Marij van Gorkom played bass clarinet
on "Black" and "Wo Ya" / Louk Boudesteijn played trombone on "Black" / Ijja Reijngoud arranged "No Nonsense"

納浩一

ウォーキング・ベース自由自在 ATOS INTERNATIONAL ATDV-110 ¥3,990(税込)
2006/3/20 Release



日本音楽界を支えるベーシスト、納浩一が贈る
ジャズ・ベース教則の決定版！

01. ベース・ソロ
02. ウォーキング・ベースの基礎
03. ロックやファンクに合わせたバターン
04. 複雑なコード進行に対応するライン
05. ウッド・ベースの奏法上のポイント難波弘之 (p)

T A B 譜付き

サラ・ガザレク

ユアーズ OMAGATOKI OMCZ-1019 ¥2,625(税込) 2006/4/26 Release



1982年生まれのニュースター誕生! 陽だまりのように温かなナチュラル・ヴォイス、フォーキー・テイストの清々しいスウィング感に全米が注目したデビュー作。日本盤ボーナス曲「ベン・デーマ」他収録。

01. マイ・シャインング・アワー / 02. ユアーズ / 03. アメイジング / 04. エヴリタイム・ウィ・セイ・グッドバイ / 05. チーク・トゥー・チーク / 06. ユー・ガット・バイ / 07. ブラック・バード / 08. サークル・ゲーム (いちご白書) / 09. オール・オア・ナッシング・アット・オール / 10. トゥー・ヤング・トゥー・ゴースティ / 11. ユー・アー・マイ・サンシャイン
【ボーナス・トラック】
12. ベンのデーマ / 13. ネヴァー・ウィル・アイ・メリー
サラ・ガザレク (vo) / ジョシュ・ネルソン (p)
エリック・カーデス (b) / マット・スローカム (ds)

DIMENSION

DIMENSION LIVE 2005 『IMPRESSIONS』 TOUR in STB B・VISION ONBD-7064 ¥4,200(税込) 2006/4/19 Release



昨年アルバム発売後に行われた全国ツアー最終公演の様相をオープニングからエンディングまで収録したライブDVDが発表。定番曲から人気曲まで新旧織り交ぜた充実の内容で、時にはメンバー3人の演奏が同時に堪能できるマルチ編集も施されている。

勝田一樹 (sax)
増崎孝司 (guitar)
小野塚晃 (key&programming)
【サポート・メンバー】
石川雅春 (drums)
グレッグ・リー (bass)

naomi & goro

HOME (for I+ STYLERS) 333DISCS 333D-26 ¥2,415(税込) 2006/4/12 Release



「HOME」は、青山にあるインテリアショップ「I+ STYLERS(アイスタイラーズ)」のためのショップイメージCDです。「HOME」というキーワードをもとに、伊藤コロロ、布施尚美、アイスタイラーズのスタッフの方々でお店のイメージにあった選曲をし、naomi & goro、伊藤コロロで演奏しました。以前にも家具ショップ「IDEE」や雑貨店「キャトルセゾン」などで、お店をイメージしたコンピレーションが発売されていましたが、このCDは伊藤コロロとアイスタイラーズの意向で、既存の曲をそのまま収録するより、一歩踏み込んで、カヴァーして、アレンジなども含めてトータルで統一感のあるものができないか?ということになり録音となりました。懐かしい曲、泣ける曲など、良い曲がたくさん詰まったポップスカバーアルバムが出来上がりました。

布施尚美 (Vo) / 伊藤コロロ (G, Vo)

ビル・エヴァンス

ザ・ユニヴァーサル・マインド・オブ・ビル・エヴァンス Nowondvd NODD-00063 ¥3,990(税込) 2006/4/21 Release



音楽史上、永遠にその名を刻んだ名ジャズ・ピアニスト、ビル・エヴァンスが楽演を交えてジャズの魅力と音楽の真髄までを語りつくす!

■収録分数: 本編約 45分
■仕様: 片面1層 リニア PCM 画面サイズ 4:3 日本語字幕入り 全編モノクロ
■プロデューサー: ヘレン・キーン (Helen Keane)
■監督: ルイス・カーヴェル (Louis Carvell)
■製作年: 1966年 ■制作国: アメリカ
■著作権表記: (c) THE UNIVERSAL MIND OF BILL EVANS 1966
■出演: ビル・エヴァンス、ハリー・エヴァンス、ナビゲーター: スティーヴ・アレン
■発売・販売: ナウオンメディア (株)
■URL: <http://www.nowondvd.net/products/billevans/>

嶋津健一トリオ

ニュー・コンセプト・オブ・ピアノ・トリオ Roving Spirits RKCJ-2021 ¥2,500(税込) 2006/4/19 Release



まさに職人技のピアノ・トリオ。ツボにはまった演奏が、リスナーのジャズ魂を刺激する!

01. Dark Eyes (P.D.)
02. The Surry With The Fringe On Top (Richard Rodgers)
03. Blue And Sentimental (Count Basie)
04. Jitterbag Waltz (Thomas "Fats" Waller)
05. Red Roses For Blue Lady (Roy Bennett/Sid Tepper)
06. Too Late Now (Burton Lane/Alan Jay Lerner)
07. Devil May Care (Bob Dorough/Terrell Kirk)
08. Sunflower (Henry Mancini)
09. Mood Indigo (Duke Ellington/Barney Bigard)
10. This Could Be a Start Of Something Big (Steve Allen)

嶋津健一 (piano) / 加藤真一 (bass) / 岡田佳大 (drums)

ライブ・イン・トーキョー

NYTC (New York-Tokyo Connection) Roving Spirits RKCJ-2022 ¥2,500(税込) 2006/4/19 Release




ニューヨークと東京の Jazz が CONNECT!

01. Well You Needn't (Monk _ arr. By Pietro)
02. The Sacred Spring (Pietro)
03. Continuance (Katz)
04. And I Love Her (Lennon/McCartney _ arr. By Katz)
05. Whatever You Can Get (Pietro)
06. Free Your Mind (Katz)
07. Mystified (Katz)
08. For You (Pietro)
09. It's You Or No One (Styne/Cahn _ arr. By Katz)
10. Thank You's

ティヴ・ピエトロ (alto sax) / ジョナサン・カツ (piano)
安川川大樹 (bass) / 江藤良人 (drums)

エルヴィン・ジョーンズ&ジャッキー・パイアード

「エルヴィン・ジョーンズ:ディファレント・ドラマー」 & 「ジャッキー・パイアード:エジソン・フォー・ジャズ」 Nowondvd NODD-00064 ¥3,990(税込) 2006/5/26 Release



ジャズ・ドラム界最大のイノヴェーター:エルヴィン・ジョーンズ、ジャズの復興を支えた名ピアニスト:ジャッキー・パイアード、ジャズ史に残る貴重なドキュメンタリー作品が2in1でDVD発売!

■収録分数: 本編約 51分
■仕様: 片面1層 リニア PCM 画面サイズ 4:3 日本語字幕入り
■著作権表記: (c) DIFFERENT DRUMMER: ELVIN JONES 1979, ANYTHING FOR JAZZ: JACKI BYARD 1980
■発売・販売: ナウオンメディア (株)
■URL: <http://www.nowondvd.net/products/elvinjones/>

ルイ・アームストロング

ワンダフル・ワールド:ルイ・アームストロングストーリー Nowondvd NODD-00059 ¥3,990(税込) 2006/3/24 Release



20世紀最高のエンターテイナー:ルイ・アームストロングの生涯を数々の名曲と共に振り返る

■収録分数: 本編約 65分
■仕様: 片面1層 ドルビー・デジタル 2.0ch ステレオ 画面サイズ 16:9 日本語字幕
■プロデューサー: デビッド・ローソン & リンダ・ゴポール (David Lawson & Lina Gopaul)
■監督: ジョン・アコマフラ (John Akomfrah)
■製作年: 1999年
■制作国: アメリカ/イギリス
■著作権表記: (c) Smoking Dogs Films
■発売・販売: ナウオンメディア (株)
■URL: <http://www.nowondvd.net/products/louis/>

SATOH Masahiko plays TOGASHI Masahiko

ORIGIN ewe EWCD-0121 ¥2,500(税込) 2006/4/10 Release



富樫雅彦愛用のエレクトリックピアノが奏でる珠玉のメロディ。ピアニスト佐藤允彦がコンポーザー富樫雅彦の原風景を辿る、シリーズ4作目。

01. Good Night My Friends / 02. Reminiscence '63 / 03. 2 1/2 Cycle / 04. Till We Meet Again / 05. Sorrowful Days / 06. Mr. Joke / 07. Contrast / 08. Memories / 09. Love Of My Friends / 10. Bura-Bura / 11. Everlasting Friendship / 12. Good Night My Friends
All tunes composed by TOGASHI Masahiko

SATOH Masahiko: ac-piano, el-piano (Roland HP-900L)

tico moon

Live at くるみの木 333DISCS 333D-25 ¥2,415(税込) 2006/3/24 Release



アイリッシュハーブとギターデュオ、ティコムーン。2005年12月17日、奈良のカフェ&雑貨店「くるみの木」一茶店にて行われた、心温まるライブの様相を収録したライブアルバムです。

01. round trip with strawberries (吉野友加、影山敏彦)
02. 深海に降る雪 (影山敏彦)
03. head fish walk (影山敏彦)
04. Water is Wide (traditional)
05. dream of time (吉野友加、影山敏彦)
06. RAIN (吉野友加)
07. 浮雲と三輪車 (吉野友加、影山敏彦)
08. slow dive (影山敏彦)
09. hot milk (吉野友加、影山敏彦)

Quincy Jones

In The Pocket Nowondvd NODD-00061 ¥3,990(税込) 2006/2/24 Release



“ポピュラー・ミュージックの大御所、クインシー・ジョーンズの軌跡”

■収録分数: 本編 85分
■仕様: 片面1層 画面サイズ 4:3 ドルビー 2.0ch ステレオ 日本語字幕
■制作年: 2001年 ■制作国: アメリカ
■著作権表記: (c) 2001 Educational Broadcasting Corp.
■発売・販売: ナウオンメディア (株)
■URL: <http://www.nowondvd.net/products/quincy/>

川嶋哲郎 Meets 鬼怒無月

レジデント・オブ・アース JazzBank M&I MYCJ-30379 ¥3,000(税込) 2006/3/8 Release



人気サクソフ奏者、川嶋哲郎が、異彩を放つユニークなギタリスト、鬼怒無月と繰り広げるデュオ、世界各地のリズムを縦横無尽に取り入れ、ワールドワイドな世界を表現した意欲作。

01. PRELUDE No.20, Op28 / 02. RYU-HYO / 03. PACEMAKER
04. ARCOS / 05. CAT IN THE RAIN / 06. MONTEGO BAY
07. BLESSLES / 08. TANGO TRISTE / 09. GIRLS OF NAINASHA
10. El DORADO

Tetsuro Kawashima (ts,ss,fl)
Natsuki Kido (g)

internet radio station
JJazz.Net
Japan Jazz Network

大切なものに出会うために
その人にとって大切な音楽は、忘れられない新しい出会いを作ります。
大切な音楽。大切な人。大切な想い。

今日お勧めの JJazz.Net Programs

JJazz.Net "THE PICK UP"
新しい季節に様々な色付いた音楽。注目のNew Releaseからたっぷりお送り致します。
[playing] さかいゆう / Senti Toy / Gontiti / 石原江里子 / 安富祖貴子 / A.P.J. / Jazztronik / らぞく / Goma / Slow Didi / Ernesto / Naomi & Goro / Yuji Oniki

JJazz.Net "THE LOUNGE"
Silent Poetsインタビュー。音について。静寂について。映画、格闘技の話も交えながら、Silent Poetsのストイックな音世界の秘密に迫ります。

JJazz.Net "THE HALL"
3/31 池袋bedで行われたイベントEl Nino。影の人物Hip HopグループTHINK TANK、同じく長年に渡りシーンを牽引し続けるECD。タイプな二組のレアなライブをお送り致します。必聴。

JJazz.Net "THE VENUE"
3/16 渋谷 LUSHで行われた、ギタリスト 酒井泰三によるイベント「快樂事件」をお送りします。古澤良治郎率いる「ね。」、そして酒井泰三率いる「electric nomado」、「三五五 with 林栄一」。それぞれのグループの魅力をつぶりお楽しみください。
[playing] 古澤良治郎「ね。」 / 3355 with 林栄一 / Electric Nomad

・毎週3つの最新プログラムをUP・全12カテゴリ・常時約50プログラム 500曲・月額¥1,050・<http://www.jjazz.net/>

ヨーロピアン・ジャズ・トリオ

BEST OF CLASSICS



21世紀の今、クラシックの作品に妄幻自在なジャズの語法をぶつけ、娯楽音楽としての生命を蘇らせるのが、ヨーロピアン・ジャズ・トリオの魔法である。

M&I MYCJ-30378 ¥3,000(税込)
2006/4/19 Release

[DISC1]

01. Turkish March (Sonata No.11 3rd movement Rondo / K.331) / 02. Adagio (2nd movement from Piano Concerto No.23 / K.488) / 03. Ouverture No.3 B.W.V.1068 / 04. Prelude 'Raindrop' (op.28-15) / 05. Allemande (French Suite No.5-1 / B.W.V.816-1) / 06. Prelude (Well-Tempered Clavichord Vol.1 No.9) / 07. Peer Gynt Suite No.1 ~ Morning (op.46-1) 08. Gymnopedie No.1 / 09. Habanera (Carmen) / 10. Adagio Assai (2nd movement from Piano Concerto in G) / 11. Hungarian Dances No.5/Brahms / 12. Mazurka No.1 (op.6-1) 13. Adagio / 14. 24 Caprice for violin solo op.1-No.24 / 15. Ombra Mai Fu (Serse 'Largo') / 16. Jesus, Joy of Man's Desiring

[DISC2]

01. Valse des fleurs(The Nut-cracker) / 02. Sonata in A major No.11 K.331,1st movement theme / 03. Ballade No.1 (op.23) / 04. Etude No.5 (op.25-5) / 05. Symphony No.40 1st movement Allegro Molto (K.550) / 06. Nimrod(Enigma variations No.9) / 07. Adagio cantabile(2nd movement from Sonata for Klavier No.8 'pathetique' op.13) / 08. The Swan Lake / 09. Ave Maria / 10. Prelude No.4 (24 Preludes op.28-4) / 11. Fur Elise / 12. The Jewels of the Madonna - Intermezzo / 13. O mio babbino caro (Gianni Schicchi) 14. Sonata(D-Minor K.9) / 15. Valse (Les songs)

INFORMATION

FAZJAZ.jp ライブスケジュール

- 5月9日 目黒 Blues Alley
- 5月10日 名古屋 Bottom Line
- 5月11日 京都 RAG
- 5月12日 福井 HALL-BEE
- 5月13日 六甲 Maden-voyage
- 5月14日 心齋橋 Knave



Yuki Arimasa Trio "Tell me where the music is"CD発売記念ライブ

- 4月21日 三鷹 Una Mas
- 4月25日 大塚 Donfan
- 4月26日 吉祥寺 Sometime
- 5月05日 小岩 Kochi
- 5月31日 六本木 Boston Dreams ☆問: <http://www.scarecrowmusic.com/>

※前号のライブ日程中、Yuki Arimasa Trioの項目に誤って、ARJの予定が掲載されてしまいました。両者の関係各位ならびにファンの方々に御迷惑をお掛けしたことを紙上でお詫言いたします。



VISIBLE SOUND 近藤等則×トム・レイズ @SUPER DELUXE

地球規模で活動する奇才エレクトリック・トランペッタートランペッター、近藤等則が、数々の世界のトップ・アーティストとの共演をもつLA出身の抽象画家トム・レイズと遭遇！二人の魂の触れ合いが生み出す、美しき鮮やかな音と色彩の融合のプロセスを凝視できるアート・ライブ・セッションが、東京で実現！！イベントには、昨年未発表の初のフルアルバム『Street Revolution』が話題の新世代ターンテーパーリスト、DJ Uppercutと、人気沸騰中のビジュアルパフォーマンスユニット、VJ DADAKINGZも参加予定。ゴールデン・ウィーク突入前のウィークエンドにお届けする、魅惑溢れるミクスチャーな夜！！



4/28(fri) SUPER DELUXE OPEN/START ▶ 19:00

■Charge 前売り ¥3,800 / 当日 ¥4,300(*1 drink付)
■近藤等則×トム・レイズ / DJ UPPERCUT / VJ DADAKINGZ
SUPER DELUXE 港区西麻布 3-1-25 B1F www.super-deluxe.com
tel: 03-5412-0515 メール予約受付中 info@super-deluxe.com
イベント詳細情報 www.vs-project.com
produced by Lovin' JAZZ on the planet



T-SQUARE Concert Tour 2006 "BLOOD MUSIC"



- 6月2日(金) 札幌 ベニーレーン 24 (開場 18:30 / 開演 19:00) お問合せ: WESS 011-614-9999
- 6月3日(土) 札幌 ベニーレーン 24 (開場 16:30 / 開演 17:00) お問合せ: WESS 011-614-9999
- 6月10日(土) 仙台 Zepp Sendai (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: キョードー東北 022-296-8888
- 6月16日(金) 新潟 LOTS (開場 18:30 / 開演 19:00) お問合せ: キョードー北陸 025-245-5100
- 6月17日(土) 大阪 なんば Hatch (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: キョードー大阪 06-6233-8888
- 6月18日(日) 名古屋 クラブダイヤモンドホール (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: グランドライン 052-935-7558
- 6月23日(金) 福岡 イムスホール (開場 18:30 / 開演 19:00) お問合せ: キョードー西日本 092-714-0159
- 7月2日(日) 東京 メルパルクホール (開場 17:30 / 開演 18:00) お問合せ: キョードー東京 03-3498-9999

全会場 チケット料金: ¥6,300-(税込)
着席スタイル (全席指定)

※東京・新潟以外は別途ドリンク代が必要となります。ご了承下さい。

Lady Kim ライブスケジュール

- 4/20(木) 渋谷 JZ Brat Tel:03-5782-0168
- 4/21(金) 舞浜 Club IKSPIARI Tel:047-305-2525
- 4/23(日) 広島 豆匠 Tel:082-506-1028
- 4/24(月) 広島 豆匠 Tel:082-506-1028
- 4/25(火) 名古屋 Blue Note Tel:052-961-6311
- 4/26(水) 京都 RAG Tel:075-241-0446
- 4/27(木) 芦屋 Left Alone Tel:0797-22-0171
- 4/28(金) 赤坂 B Flat Tel:03-5563-2563
- 4/29(土) 新宿 DUG Tel:03-3354-7776
- 4/30(日) 青山 Body & Soul Tel:03-5466-3348



ユメと、
チエと、
アセと、マネー。



chic ayado

お金にも、長生きしてもらわんとね。

これからは綾戸智絵さんといっしょに

長生きを、たくらみませんか。

若い人たちが羨むような長生きを、たくらみませんか。

長寿大国、ニッポン。いくつになっても、夢を実現する時間は十分あります。

私たち日興アセットマネジメントは、チエをしぼり、アセをかい、マネーを育てる、

より良い投資信託をつくっています。

私たちは、投資信託を「つくる」会社です。

nikko am 日興アセットマネジメント

個別商品・投資信託についての詳しい内容は、コールセンターまたは、当社商品をお取扱いいただいている銀行・証券会社(当社ホームページにてご案内しております)までお問い合わせください。※投資信託は元本が保証された商品ではありません。

お問合せ (コールセンター) 0120-25-1404 (受付時間 9:00~17:00 ただし、半休日となる場合は 9:00~12:00 土・日・祝日は除く。)

(ホームページ) www.nikkoam.com (携帯サイト) www.nikkoam.com/i



古井戸の世界 / 古井戸 (VPCC-84530)...

首を長くして待ちわび、発売日に買った記憶がある。復刻盤の資料で確認したら昭和47年3月25日。連赤のリンチ殺人事件が世間を震撼させ、高3を迎える春休みのじぶんは黒い瞳の少女と正丸峠を歩いてた頃。マセた同級生から借りた『マイルストーンズ』に痺れ、庄司薫の『赤頭巾ちゃん気をつけて』に耽り、URCからエレック陣の歌世界に心を奪われていた。〈ごろ寝〉〈ろくでなし〉〈何とかなれ〉…一枚を聴き通しても意外と古さは感じない。マイルスと薫くと古井戸と、ELPの後楽園ライブ(7月)や映画『夏の妹』や〈喝采〉、そんな諸々の興味がじぶんのなかで同居していた当時のコトを最近よく想い出す。“あそこ”から今日まで生きてきた。



山本弘ほか共著『と学会レポート・人類の月面着陸はあったんだ論』(業工社)...

Out There で吉田美奈子を取材した当時の新作〈FOOTSTEPS〉を聴いて以来、月を見上げる機会が増した。この本を読んで以降、じぶんの中でアポロ熱が再燃しているが再鑑賞したい映画『カブリコン・1』のソフトがなかなか見つからない。が、今月号から寄稿を始めてくれた尾形奈美さん(仙台在住)と会った直後、現地の中古盤屋のDVD棚で買い逃していた美奈子さんのライブ映像『Special Showcase Stablinotes~Vision 2』を掘り出す。8曲目に〈FOOTSTEPS〉が入っている。この入稿を終えたら、ぼけっとしながら夜空を見上げよう。

HANK JONES meets CHEICK-TIDIANE SECK and the Mandinkas / SARALA(輸入盤)...

仙台で途中下車したのは、一ノ関『ベイシー』で開催されたハンク・ジョーンズ(p)+ケイコ・リー(vo)+坂井紅介(b)のライブ取材の帰りなのだが、上記と同じ店でゲットした1枚。次号からハンクさんのロング・インタビューを連載するが、未聴で現在買い揃え中のアルバム中でも「最も感動し、且つ驚いた」究極の一枚。9月に開催される某ジャズ祭の出演がいち早く決定したといわれる87歳のマエストロ。この録音秘話を聴きたい。



ネルソン・ジョージ著『リズム&ブルースの死』(早川書房)...

随分前に購入し、いち早く読むべき(読みたい)一冊だったが、なぜか今日まで放置されていた。現在半頁ほど読み終えたが随所に「発見」があり、先の展開が楽しみ。他にもココ数ヶ月間の話題の新刊ラッシュで保留状態の書籍は川崎宏著『狂おしい夢・不良性感度の日本映画』、内橋克人・佐野誠[編]『ラテン・アメリカは警告する〜「構造改革」日本の未来』、宮台真司・北田暁大共著『限界の思考』、菊地成孔+大谷能生・共著『東京大学のアルバート・アイラー(東大ジャズ講義録・キーワード編)』、松田良一著『永井荷風 オペラの夢』等々、新刊・古書織り交ぜて何冊もあるが、GW無休の次回入稿前には全部片付けてしまいたいものである。

ジャズベリー・パッチ / JAZZBERRY PATCH(PCD-22228)...

聴いても聴いても聴ききれない数のサンプル盤山脈。そんな中で昨晩、文字校正のBGMでかけて「これは!!」と思わず反応したのが彼らの唯一残されたという一枚。文句なしにカッコいい、ファンキーなAOR、レア・グルーヴ・クラシックとしても有名な傑作盤らしいが「今日」の出遣いに感謝したい。他にも(今月号の小沼原稿にも登場する)バーナード・ファーラーの新作『フレンズ』(VRCP 12002)や、(NYで邂逅していながら聞きそびれていた)センチ・トイの話題盤『how many stories do you read on my face?』(intx-1005)なんかは「買って即、聴けばヨカッタのに…」と寝かせておいたのが悔やまれた作品だ。今月は聴きまくるぞ!



松田政男著『不可能性のメディア』(田畑書店)...

で、話はふり出しに戻るといふか、毎月入稿を終えると(来月こそは連載を始めるぞ!)と決意しながら一向に作業着手にかかれないテーマが「1972年問題」。その年の元日に森恒夫が東京拘置所内で自戒しているが、海の向うのアメリカではザ・バンドがカウントダウン公演を行ない、のちにライブ盤『ロック・オブ・エイジ』として発売されたが、いろいろな意味でじぶんの感受性が「次の扉」を開いた年でもあり、いつか物語ってしまいたいといふ想いがもう何年か燻っている。同年発売の音楽作品はジャンルを超えて一つの棚に収められ、本書のように同年初出の文集や関連図書も見つけた度に購入しているのだが…はてさて、いったい連載開始はいつか?

暦の関係上、
次号の各店頭配布
は5月22日(第4
日曜日)以降とな
ります!